

チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

通信 第53号

2025.3 vol.53



2024 年度活動報告会



講演者



交流会



みなと区民まつり



第13回学ぶ会



まち歩きの会



赤羽小学校昔遊び授業

CONTENTS

■ごあいさつ

高輪地区総合支所 協働推進課長

本城 典子

明治学院大学 学長室次長（社会連携担当）

加畑 慎一

■CCクラブ 2024 年度活動報告会

■2024 年度CCクラブ活動報告

■地域CCクラブ活動紹介

■運営委員会報告

チャレンジコミュニティ・クラブの 皆様へ

■高輪地区総合支所 協働推進課長
本城 典子

以前から「チャレンジコミュニティ大学」については知っていましたが、大学を修了された方々が「チャレンジコミュニティ・クラブ」として地域で様々な活動をされていることを知ったのは、昨年4月に着任してからでした。



区民の9割がマンションにお住まいであることや、活発な再開発によりまちが変わり、新しい住民も増える中、昔ながらの地域のつながりが薄れてきています。そんな現状を目の当たりにし、区として何ができるかを考える日々ですが、皆さんの活動が地域を支え、つながりを保ち、港区への愛着を醸成してくださっていることに目を見張るとともに心から感謝しております。

皆さんが仲間とともに、日々楽しく、笑顔でご自身の活動を続けてくださることが、そのまま区の魅力向上、地域コミュニティの発展につながっていきます。区は、皆さんの活動が広がり、より多くの区民の支えとなるよう、これからも様々な角度から支えてまいります。

来年度からは、チャレンジコミュニティ大学に大学院が新設される予定です。チャレンジコミュニティ大学を修了した方が、地域福祉についての学びを深めることで自らの活動を深化させ、地域でその力を一層発揮していただくために開設するものです。ハードルが高く感じられるかもしれませんがそうではなく、「自分の活動をもっと良くするためにはどうしたらいいか考えたい」「自分の活動を通じてもっと沢山のの人に笑顔になってほしい」「地域のために何ができるか、自分の新しい可能性を発見したい」という気持ちのある方を支援する事業です。ご興味のある方はぜひ、挑戦してみてください。

これからも共に「誰もがともに支え合いながら、自分らしく生きがいを持って心豊かに暮らせる地域共生社会の実現」に向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

CCクラブのみなさまへ

■明治学院大学 学長室次長（社会連携担当）
加畑 慎一

2024年4月に明治学院大学 学長室次長（社会連携担当）に着任しました、加畑 慎一と申します。改めまして、どうぞよろしくお願いたします。

チャレンジコミュニティ大学（CC大学）は、2025年度には第18期を迎えます。コロナ禍で開講できない年もあったようですが、すでに修了生数は約1,000人となります。CC大学の開校当初を知る者のひとりとして、まさかここまで発展するとは思ってもおらず、本当にうれしく感じている次第です。今年度10月には、明治学院大学としても念願であった、CC大学の上級コースにあたる「チャレンジコミュニティ大学アドバンスト（プレ）コース」を開校しました。2025年度には「チャレンジコミュニティ大学大学院」と改称し、いよいよ本格稼働となります。ご興味のある方は、ぜひ挑戦していただきたいと思います。

久しぶりに社会連携を担当させていただき、とくに感じていることは、CC大学とチャレンジコミュニティ・クラブ（CCクラブ）の連携・接続がとてうまくいっている、ということです。CC大学の授業開始前に、CCクラブの方々がいらっしゃってCCクラブの活動や勉強会の告知等を丁寧に行い、CC大学受講生もそれに応えて、その活動等に積極的に参加する、といったことが日常的に行われており、とても良い循環ができています。また、CCクラブでは、本学ボランティアセンターの1 Day for Others等にも企画を提供いただいております。CC大学、CCクラブ、本学が、地域の中で機能的に動き始めている印象を持っております。活動をされている皆様には、心より敬意を表したいと存じます。

本学ではCC大学・CCクラブのサポート等とともに、生涯学習全般にも力を入れております。「明治学院プラチナカレッジ」と銘打ち、いろいろな分野の講座を展開しています。ぜひこちらにもご参加をいただけますとありがたく存じます。



CCクラブ 2024 年度活動報告会

2024 年度活動報告会は、2 月 22 日（土）13 時 30 分～17 時 00 分で明治学院大学 3201 教室にて活動報告会と講演会を開催しました。そして交流会を 17 時 20 分～18 時 40 分でパレットゾーン 1 階にて開催しました。

参加者数は活動報告会、講演会で 120 名（会員 89 名、来賓・家族友人 14 名、CC 大学 17 期生 17 名）、交流会 72 名（会員 62 名、来賓 10 名）でした。講演会には会員以外の方も参加されました。

代表と来賓の挨拶

活動報告会は松嶋恵美子副代表（10 期）の司会で始まり、冒頭に CC クラブ代表が挨拶し、引き続き来賓の方より挨拶をいただきました。

チャレンジコミュニティ・クラブ代表 阿部令子

この一年間 CC クラブの活動の場も広がり、さまざまな場面で会員が活躍しています。代表して地域 CC クラブの活動の様子や、CC クラブ全体の活動をご報告させていただきます。また、今回のテーマとして防災対策や被災地の生活について思いをめぐらし予備知識を得て、物資だけでなく心の準備をしていただける機会となれば幸いです。本日出席していただいた来賓の方々へ感謝いたします。



明治学院大学名誉教授学長特別補佐 河合克義様

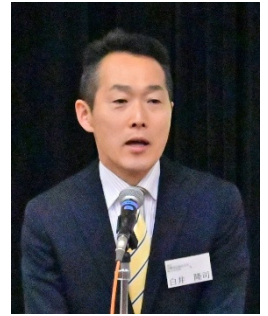
もうすぐチャレンジコミュニティ大学、チャレンジコミュニティ・クラブは 20 年の節目を迎えますので、この 20 年の歩みを何らかの形で世間に発信したいと願っています。年表的なものを整理して、今までの歩みを綴ることも必要でしょう。港区内の活動だけでなく、ここまで力を持ってきましたので、全国に地域活動のモデルをこの CC クラブでぜひ示して発信していただきたいと思っています。



今年度にチャレンジコミュニティ大学の大学院がスタートしましたが、来年度からは港区と連携してこの大学院が出発する予定です。

高輪地区総合支所長 白井隆司様

区の様々な事業にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。本日のテーマが防災ということですが、阪神淡路大震災から 30 年です。阪神淡路大震災は、「日常生活における人々の結びつきは、お互いの心配りや助け合いを通じて、災害時に人の命を救う上で大きな力を発揮する」ということを再認識させる契機となったと言われています。改めて、日頃からのコミュニティの大切さを感じています。高輪地区総合支所は引き続き皆様の活動を支援していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



運営部門報告

チャレンジコミュニティ・クラブ代表 阿部令子

(1) 2024 年度概要

2024 年 4 月現在の CC クラブの人数ですが合計で 904 名の修了生の内、CC クラブの会員が 778 名です。居住地区別には芝地区 119 名、高輪地区 307 名、麻布地区 102 名、赤坂青山地区 83 名、芝浦港南地区 152 名の会員が活動しています。

(2) 活動実績

主な活動についてスクリーンに掲示しながら、以下の説明がありました。



- ① 定期総会とホームカミングデイ（6 月 22 日）
総会では第 1 号議案から第 3 号議案まで賛成多数で承認され、ホームカミングデイの講演会は、学長に就任された今尾真先生にご登壇いた

できました。

- ② 企画部会主催のまち歩きは、勝海舟ゆかりの赤坂の坂めぐり(5月22日)立夏の美術館で建築を学ぶ(5月29日)を実施。
- ③ ういケアみなととの連携企画を実施。
- ④ 第12回学ぶ会は、ボランティアってな〜に！というテーマで、明治学院大学ボランティアセンターの砂川さんにお話を伺いました。
- ⑤ 明治学院高等学校ゲストスピーチ参加(6月12～21日までの5日間)
- ⑥ CC大学17期生授業協力(7月12日、2025年2月12日)
- ⑦ 港区立精神障害者支援センターあいは一と・みなとまつりに協力(9月8日)
- ⑧ 運営委員会は、9月より広い教室をお借りして、参加の皆様のお顔を拝見しながら和やかに会議が行われています。
- ⑨ みなと区民まつりに協力(10月12日、13日)
- ⑩ 港区地域福祉フォーラムに参加、カフェの運営協力(11月2日)
- ⑪ 第13回学ぶ会は、港区の歴史的建造物についての講話。(11月6日)
- ⑫ まち歩きは、麻布地区歴史的建造物見学(11月28日)
- ⑬ 第14回学ぶ会は、1 Day for Others まとめCCクラブ会員、CC大学17期生、明治学院大学生も参加し、幅広い年齢層での有意義な意見交換会(12月4日)
- ⑭ 昔遊びの会(12月17日)
赤羽小学校で小学一年生の授業協力
- ⑮ CC大学18期生募集事前説明会(5回開催)
- ⑯ 社会福祉協議会 JAL インフォテックの皆様とのデジタル安心講座に協力(1月16日、23日)

地域CCクラブ活動報告

芝CCクラブ 石川啓子(8期)

芝CCは4月に3名の16期生を迎えて87名で今年度はスタートしました。主な活動は定例会、アドプト活動、芝三田まち倶楽部の折り紙活動、パーキンソン病の方々の会を支援する活動など年間を通して行っています。



総会は年に1回、4月に実施し、定例会は基本的に第3月曜日の午後に実施しています。25年度からは第1月曜日の午前中に変更の予定です。

芝の高齢者相談センターのデイサービスの方々を対象に始めたカード作りのイベントを実施しています。二年目になりました。芝祭りは毎年参加しています。

明虹会

齋藤正精(6期)

近江久美子(16期)



明虹会の活動には、協働推進と、独自企画と個別活動グループの支援という3つの柱があります。特に個別グループの活動を支援しております。今年はサンプルとして栄養学

に気を付けて高齢者に食事を提供するというアイランズキッチンの様子を説明します。

明虹会ではDXを非常に重視してまして、去年の10月からスマホとパソコンの相談会を開催しております。明虹会のメンバーが5名ぐらいと、ホームページ部会員とで共同してやっておりますが、これは制限を設けず、すべての質問に対して対応しています。



高輪地区CCクラブ

太田則義(7期)



地域とつながることとCCクラブの会員とつながる高輪地区CCクラブであることを掲げて活動しています。現在の会員数は239名です。6月の総会には53名、納涼交流会

には82名が集まりました。10月には初めて三田台公園での高輪地区まつりに参加し、年2回のかんがり活動に参加しています。毎月2回開催のコミュニティカフェでは、新たな試みとして展示ギャラリーで2月にボッチャを実施しました。その他多くの催しを実施しています。地域会員の皆さんにメールを通じて活動を配信しています。その他区関連の掲示板や町会の掲示板といきいきプラザ

などにカフェの案内をしています。

3Aクラブ

宮崎則行 (16期)



CC大学を修了したばかりの16期生です。副代表は15期生で5月に総会を終えて正式に決まりました。

これまで実施してきたサロン麻布をサロン3Aに名称変更して毎月実施しています。4月は新入会員との茶話会、5月はボランティア活動の勉強会、6月はロボットと一緒に10分体操、7月は外交史料館の見学会、みなと科学館での星座の話を実施しました。9月には麻布未来写真館という支所の行事が、あざぶら部(麻布地域の魅力伝承事業)に変わって写真を比較、10月はボイストレーニング、11月は自然教育園、12月はカルタで遊ぼう、1月にはAIロボットとの会話を楽しみました。2月は成年後見人について学び、3月はお花見会の予定です。

講演会

阿部令子代表より本日の講演者の紹介がありました。

第一部の講師の先生のご紹介をさせていただきます。港区にお住まいの武田敦子さんは、長年にわたり、地域での子育て支援から高齢者支援まで幅広く様々な活動をなさっています。今回は、ボランティアサロン活動に参加された時の被災地の様子や、そこに暮らす人々に寄り添った活動についての貴重なお話を伺いたいと思っています。

第二部では、港区防災課長の井上様より、港区の防災対策についてお話をいただきますが、いざと



第2部講師の皆さん

いう時に慌てず落ち着いて行動するためにも、地域に暮らす私たちにとっても、必要となる知識をご紹介しますと思っています。

第一部 能登半島地震被災者支援 ボランティアに参加して

講演者 武田 敦子様



簡単に自己紹介いたしますと、50歳で退職する少し前から、町内会やマンションの管理組合などの地域活動はしていたのですが、ボランティア活動を始めたのは退職後、50歳を過ぎてからです。

私が初めて能登の被災地に行きましたのは5月でした。参加したプログラムは、東京ボランティア市民活動センターで、社会福祉協議会の運営主体の団体です。もう一つ、災害共同サポート東京という非営利団体の集まりのような団体の三社共同プロジェクトでした。最初の活動は都内一斉街頭募金です。私も港区社会福祉協議会の呼びかけに参加いたしまして、田町駅、浜松町駅前で1月から3月、そして豪雨災害後の10月にも街頭募金に参加しました。10月になりますと、実は寄付はあまり集まらず、数ヶ月経ったらもう東京では何事もなかったようになり、恥ずかしながら能登のことを忘れがちになっている自分がいました。そんな時に、社会福祉協議会の方から被災地へのボランティアの募集があり、参加いたしました。この3泊4日のプログラムは、地域の交流と支え合いの場づくりというサロン活動です。被災地で片付けや避難所のボランティア活動の経験はありましたが、サロン活動というのは初めてで、被災地でのサロンって何をやるのだろうとまず疑問に思いました。そして、過酷な状況にいらっしゃる方々が、サロンを開いてもそこまで来てくださるのだろうかというふうに思っていました。この活動の募集要項ですけれども、様々な制約ある現地での共同生活に耐えられる人。こういう人が参加してください、持参品も寝袋か、シーツ2枚、長靴などです。お風呂は3日間入れないかもしれませんし、シャンプーはできません。そういった科学的な洗剤は一切使えません。

訪れた現地は、もう発生から5ヶ月が経っていたのですが、道路には亀裂が入ったまま分断されていて、通行止めのところばかりでした。私が不思議だったのは、復興工事が進んでいるような気配

があまりなかったです。人も本当に少なくて閑散としていて、各地の自治体から応援の方々がたくさん入っていらっしやった。サロンを開いて、本当に来てくださるのかなってというのがすごい疑問だったのですけれども、実際は皆さん、サロンを開くのをサロンの場所の前で待っていてくださるので、それで始まるともう急ぎ合うように入ってきてくださいました。最初は私たちと何気ない会話をされているのですけれども、地域の方がいらっしやると、元気だったとか、どこに避難してたの？とか、今どうしてるの？、というようなことを、皆さん肩抱き合って尽きることなく話し始めるのですね。被災地のサロン活動ってこういうことなんだなって、その時初めて私も気づきました。被災され、地域交流が途絶えてしまって、皆さん、離れた仮設住宅で孤立した生活を送っているのですけれども、そういう方たちに集まる場所を提供することで、情報収集と、少しホッとできる交流の場を、皆さんに、ほんの少しだけホッとさせていただいた活動だったと思います。本当に人って集まって寄り添うと優しくなれるのだなということを実感しました。



活動報告会会場

第二部 講演と会員の防災活動

講演者 防災危機管理室防災課長 井上 茂様



港区の防災対策ということでお話をします。テーマを簡単に最初にご紹介をさせていただきます。

① 首都直下地震による被害想定を、改めて皆さまにお話します。②実際に地震が発生して、災害が起きると、1週間ぐらいで、どのような動きがあるのかということをお話します。③災害時の被害が起きた

時に、区がどのようなことをするか、準備しているか。区が準備しているということは、それを皆さまに実践していただきたいという要素がありますので、そここのところについてお話します。④日頃からの備えを皆さんにお願いしたい。

皆さまの場合は、住んでいる地域ごとに異なる特徴がありますのでそれに合わせた対処が必要になります。この10年間で増えているものがあります。皆さんもご存知のようですが、帰宅困難者、エレベーターの閉じ込め件数が圧倒的に増える傾向にあります。これにつきましては、後ほどまた一つ一つお話をさせていただきたい、と思っております。ご存知のようにエレベーターは結構増えています。駅に行っても必ずエレベーターはありますし、高層の建物が増えていますから、どんどんエレベーターも大型化してきます。台数も増えていきますので、私たちもエレベーターに乗る機会が多分多いと思いますが、台数が多くなるということは、やはり閉じ込めの発生率は上がってきています。

災害が発生した場合、一時間以内に災害対策本部を立ち上げます。3時間ぐらい経ちますと、いろいろ情報が集まってきますので、その情報に合わせた対応策をとっていくという考えでいます。その中の一つには、避難所の開設というのが入ってきます。大体もうあつという間に一日目が終わるだろうというのが私たちの今の論点になっています。そこから2日目、3日目となっていくと、特に避難をしている状況というのがありますので、その避難環境を少しでも向上させるということから、支援の物資を避難所に持っていきます。必要なもの、足りないものを避難所の方に用意するとか。1週間ぐらい経ってきますと、止まっていたインフラも、少しずつ復活してくる要素もありますので、そういうのを見ながら必要な対応をとっていくのです。

この先地震が起きる可能性が高いというのは、私たちは肝に銘じておかなければいけないのかなと思います。そのため、常日頃から皆さんにとにかく心構え、地震は防げないので、地震が起きた時に怪我をしない、困らないための事前の対策と、地震が起きても、その後どうやって生き延びるか、自分

たちがどう復興していくかという、この二つを考えてほしいということで、いろいろな政策を行っています。

防災士の活動について 川村 潔様 (9期)

私はNPO法人日本防災士会東京都支部港区ブロックに所属しております。本日着ているのが防災士のユニフォームです。これを着ていれば、



日本防災士会の会員ということがすぐわかるようになっています。

事業・活動のコンセプトは「楽しい、面白い」で「サロン麻布の継続発展」「港区役所との連携」があります。

活動方針は①サロン麻布を中心に進める②地域社会と連携した活動を行う③自立して楽しい有意義な生活を進める方策をみんなで考えることです。

チャレコミ講座でテーマを皆に聞かせようとして取り組んでいます。具体的なテーマとして「ロボットで話し合いをしながら生活する（一人暮らしの話し相手）」があります。人生 100 年時代とはいえ、いろいろな課題があると考えています。

「地域防災協議会」活動について

榎原 益躬様 (12期)



地域防災協議会とは地域住民による防災組織のことで、主に町内会や自治会が自主的に連携して防災活動を行う任意団体のことを言います。

1995 年 1 月に阪神淡路大震災が発生しました。その時のアンケートによると、地域住民によって助け出されたという方が約 97%、公的機関によって助け出されたという方が 2%だったとのこと。公的機関だけでは対応しきれないことに気づかされたということです。さらに、学校が避難所になっているところは教職員が対応したということです。教職員は生徒の面倒を見ながら避難所の運営もするというので体力的、精神的にも参ってしまったということです。これらのことから自主防災組織が誕生したと聞いています。

港区内には、小学校ごとに地域防災会がありま

す。私たちの白金小地域防災会は、白金台地域の町会自治会 10 団体で構成されています。役員は 29 名で内CCクラブ会員は 5 名で、17 期生で看護師の方が 1 名います。

普段から地域の行事等に積極的に参加をして顔見知りになることが大事になります。その中で夜警パトロールがテレビの番組で紹介されましたが「火の用心さっしやりましょう！」の掛け声の部分がわからないようでスタジオがざわめいたということがありました。時代劇でしか使わないので「火の用心なさいませ！」という意味が分からなかったのでしょうか。他にラジオ体操、盆踊り大会に参加しています。

交 流 会

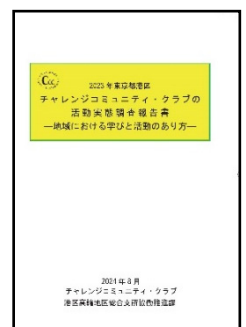
引き続いての交流会は、パレットゾーン 2 階においてビュッフェ形式で行われました。

司会を瀬能正実副代表が行い、阿部代表が開会宣言をしました。明治学院大学学長室社会連携課加畑次長と高輪地区総合支所協働推進課大野係長の挨拶があり、明治学院大学社会学部社会福祉学科教授明石先生の挨拶と乾杯で始まりました。歓談ののち、1 期生を代表して吉田さんと米永さんの挨拶と手締めにより散会しました。

2023 年版活動実態調査報告書発行

港区高輪地区総合支所協働推進課の勧めもあり 2023 年 6 月に実施した活動実態調査を「チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書」として 2024 年 8 月に発行しました。報告書は A 4 判、全 122 ページで、全 CC クラブ会員に CC 通信 52 号と一緒に配送し、港区関係者、明治学院大学関係者にも配付されました。データは CC クラブホームページにも掲載してあります。

今調査にあたり明治学院大学名誉教授河合克義先生と帝京平成大学准教授石川由美先生には分析と調査書発行に多大なるご教示をいただきました。また、調査から調査書発行まで港区と明治学院大学に費用も含めて多大なるご支援をいただきました。



みなと区民まつり(10月12日～13日)

今年度もみなと区民まつりは5月から準備に入りました。企画部会では部会内に区民まつりチームを作り事前準備と当日の運営を計画し推進しました。

運営についてはクイズを行い、記念品を全員にプレゼントすることにし、展示についてはCC大学、CCクラブ、地域CCクラブの紹介と昨年から始めたCC大学の入学案内をすることにしました。

「港区知ってる?クイズ」については昨年同様大人用と子どもにも分かり易い簡単な問題を作成しました。景品については昨年作成した古い切手を利用した栞(100個)を今年も14期会員に主導していただき、会員が自主的に作成したクリスマスリース(220個)、新たに提案のあった栞(100個)そして折り紙を使った楊枝入れ(120個)を8月、9月の部会で作成し袋詰めをしました。企画部会以外でも多くの方の協力があり10期3グループのコマの折り紙(230個)、15期生会員の携帯ポリ袋入れ(40個)そして芝CCクラブからポプリ(60個)が提供されました。合計で約900個の手作り記念品が集まりました。



記念品として配布したクリスマスリース、しおり、楊枝入れ、ポプリ

CCクラブの展示スペースは昨年とほぼ同じ芝公園東側入門ゲートの近くで、参加者から目立つ場所でした。クイズを利用して、区民をはじめとした来場者と交流を図ること、CCクラブ全体と地域CCクラブの活動を理解していただくこと、そしてCC大学募集の宣伝も行うことにしました。

当日運営については運営委員、企画部会員、地域

CCクラブ会員、役員の32名が協力しました。

10月12日(土) 11:00～17:00

昨年同様に天気は良く、初日の準備は開始の1時間前から始め、スタッフは30分前に集合し、11時にオープンとなりました。

開始後しばらくすると来場者が増えてきて、2種類のクイズのうち1枚を渡し3問に回答していただき、答え合わせと解説をし、最後に記念品を選んでいただきました。初日の来場者は午前には340名、午後には140名で合計480名でした。



参加した2日間の会員スタッフ

10月13日(日) 10:00～16:00

2日目も天気に恵まれ、来場者が多く来られました。2日間共にお子様と一緒に親子、高齢者の方、子どものグループなど年齢層は多岐にわたり、外国人の方もクイズに参加していただきました。

午前には清家愛区長が実行委員長と一緒にブースに寄られお話をさせていただきました。

2日目の来場者は午前が190名、午後が230名で合計420名、2日間合計で約900名でした。

CCクラブが港区民を始めとした地域の方と触れ合う良い機会でした。このような行事に多くのCCクラブ会員が準備と当日運営に関わったことは大変意味のあることでした。また、会場の多くの場所で会員が活動していた姿が見られました。



クイズのお誘いと記念品を選ぶ参加者

2024年度CCクラブ活動報告

第13回学ぶ会(11月6日)

日時：11月6日(水) 14:00~15:30

場所：ゆかしの杜 白金台区民協働スペース

講師：港区立郷土歴史館 学芸員 川上悠介様

テーマ：港区の歴史的建造物

参加者：会場 53名(17期生 15名含む)

講師と郷土歴史館の紹介で始まった講演は、川上氏の知識の豊富さと聴衆を魅了する話術で、90分という長さを感じること



講演者の川上悠介学芸員

なく、次のような内容で楽しく進められました。

1. 建築物には、庭園美術館のように装飾品も含めた美術品、生活空間としての建物がどのように人々の生活に影響していたかを知る民俗学資料、又は明治学院のインブリー館のように歴史学資料としての見どころがある。
2. 港区の文化財の見つけ方として3回の調査が行われる。対象物すべてを歩いて、くまなく調査し台帳を作る → 文献や聞き取り調査を行い、一次調査の結果を地図にプロットする → 実測調査を行い、当初の形を図面で復元する。
3. 保存の種類：(1)増上寺のような現地保存(2)江戸東京たてももの園のような移築保存。北里研究所が白金から明治村に、旧麻布区役所が武蔵野市に、高橋是清邸が江戸東京たてももの園へと、港区ゆかりの建物も移築されている。(3)部材のみが残っている場合は、江戸東京博物館のようにジオラマで建築を再現する。
4. 文化財の種類：(1)指定文化財(2)伝統的建造物保存地区(3)登録文化財。登録文化財は、築50年経過していることを前提に、国土の歴史的景観に寄与し、造形の規範となっていて、再現が容易であるという三つの条件を必要とする。
5. 港区の文化財：(1)国の重要文化財(増上寺の三解脱門、慶応義塾大学の演説館)(2)東京都の指定文化財(赤坂氷川神社社殿、明治記念館)(3)港区の指定文化財(明治学院の記念館、旧乃木邸及

び馬小屋)(4)国の登録文化財(堀商店、東京海洋大学の雲鷹丸)

6. 日本近代建築史(1868~1945)：明治に西洋から石の文化が入り、石造建築の旧新橋停車場が建てられる。明治の終わり頃になると日本に適應するような疑洋風建築(和洋折衷)が増え、大正から昭和にかけては、和洋館並列住宅も建てられるようになる。そして関東大震災を機に鉄筋コンクリート造へと変わっていく。

この講演を通して、港区には素敵な歴史的建物が沢山あることを知りました。これからは時間を見つけて、港区界隈を散策しながら、歴史的建造物を、建物の美しさだけでなく、今回学んだ様にいろいろな視点で鑑賞して回ってみようと思いました。そしてそんな生活の楽しみを教えていただいたことに心から感謝したいと思います。



満員の会場で熱心に講演を聞く会員

秋のまち歩き(11月28日)

11月28日(木) 10時より麻布十番パティオ公園を集合場所として晩秋の小春日和の下で「麻布地区の歴史的構造物を巡る」が開催されました。

童謡「赤い靴」の主人公きみちゃんの像に集合したCCクラブメンバーは、2グループに別れ、それぞれ中嶋さん(12期)、金澤さん(15期)の名ガイドを聴きながら名所を訪問しました。参加者は全員で28名でした。

主なコースはパティオ広場(きみちゃんの像)⇒3店のお蕎麦屋さん⇒麻布十番稲荷⇒鳥居坂下(国際文化会館紹介)⇒暗闇坂⇒麻布一本松⇒西町インターナショナルスクール⇒麻布氷川神社⇒安藤記念教会⇒仙台坂⇒麻布善福寺、でした。

今回のまち歩きのガイドさんの説明で「きみちゃん」は、異人さん(宣教師)と共に渡米しておらず、

結核で孤児院で亡くなった」、「麻布十番稲荷は、大火でも蒲池のカエル（水を吹く）のおかげで焼失しなかった」、「安藤記念教会は、ハワイで洗礼を受けた最初の日本人（安藤太郎）が私財で建てたもので東京都歴史的建造物となっている」を知りました。

重要文化財等の見学により、港区の文化的価値を把握することができ、多くの新発見がありました。都市開発と文化財の保護継承が両輪となって港区の進展に大きな役割をはたしていることに感化されながら、まち歩きはフィナーレを迎えました。



秋の好天下、麻布善福寺での記念撮影

第12回学ぶ会(7月3日)

日時：7月3日（水）14：00～16：00
場所：明治学院大学本館 1358 教室
講演者：明治学院大学ボランティアセンター
ボランティアコーディネーター 砂川秀樹様
テーマ：ボランティアって な～に
ーボランティアと市民社会ー

参加者：会場 40 名

今回の学ぶ会は初めて明治学院大学教室にて、地域連携部会の主催で開催し、CCクラブ会員 15 名、CC大学 17 期生 17 名、明治学院大学河合克義先生、明治学院大学社会連携課、ボラ



講演者 砂川秀樹様

ンティアセンターそして港区社会福祉協議会の方が参加しました。

砂川秀樹さんの講演は約 50 分で、1. 自己紹介 2. ボランティアとは（英語の volunteer, 日本におけるボランティア）3. ボランティアの危うさ（ナチスドイツとボランティア、動員論ーボランティアはシステムによって動員されている）4. ボランティ

アの可能性 5. ボランティアと自主性のテーマで進められました。

休憩後に 1986 年 10 月「おおさか行動する障害者応援センター機関紙『すたこらさん』」に掲載された花田えくぼさんの「ボランティア拒否宣言」を参加者で朗読し、意見交換を行いました。

後半は、講演会の内容に対する質問、17 期生からの地域 CC クラブの活動を紹介して欲しいとの要望、そして会員から「ボランティアとは何か」、参加者自身のボランティア体験の紹介があり、意見交換がありました。

今回の学ぶ会は「1 Day for Others」活動の一つでしたが、体験会に繋げる企画でした。



多くの参加者で一杯の会場（1358 教室）

第14回学ぶ会(12月4日)

日時：12月4日（水）13：30～15：00
場所：明治学院大学本館 1253 教室
テーマ：地域におけるボランティア活動を考える
～誰かのための一日がわたしのための一日に～
(1) 基調報告（金原智子地域連携部会長）
2024 年度 CC クラブ 1 Day for Others（明治学院大学生対象と CC 大学 17 期生対象）
報告

(2) 参加者全員で「地域におけるボランティア活動」についての意見交換会

参加者：CC 大学 17 期生 13 名、CC クラブ会員 12 名、明学生 5 名、社会連携課 1 名、ボランティアセンター 2 名、合計 33 名

太田則義地域連携副部会長の司会で始まり、5 期大竹裕さん、12 期平田渥美さんが自身の行っているサロン活動の現状を報告し、その後、参加者全員で質疑応答を行いました。CC 大学在学中の 17 期生から地域活動の始め方などについての質問がありました。明治学院大学生からは「高齢者の多彩な活動に感銘を受けた」、「自分たちの現在のボランティア活動について」の発言がありました。

1 Day for Others (明治学院大学連携活動)

1 Day for Others (1日だけのボランティア体験)活動について今年度もCC大学17期生対象(明治学院大学社会連携課と連携)と明治学院大学生対象(同大ボランティアセンターと連携)で行いました。CC大学生対象については昨年までの4グループに加え、新たに4地域CCクラブの協力を得て、8つの活動の募集を行いました。

CC大学17期生対象 1 Day for Others

今年度の参加者は7日間の活動に8名の方が参加しました。

①プレーパーク(みなと外遊びの会)

10月2日(水)に高輪森の公園での活動に1名が終日参加しました。

②なぎさサロン(港区広域サロン)

11月14日(木)午後から行われた芝浦区民協働スペース会議室でのサロン活動に1名が参加し、運営協力と芝地域高齢者相談センターの講習などに参加しました。



プレーパークの子どもとなぎさサロンのまとめ会

③3Aクラブ、3Aチャレコミ講座運営支援

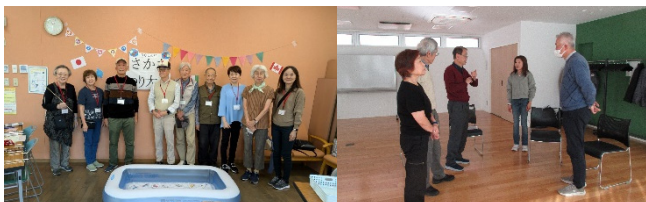
10月11日(金)麻布区民ホールで開催された公募による有料講座の会場設営、受付等の支援活動に1名が参加しました。

④明虹会、あいぷら祭り明虹会出店コーナー運営

11月3日(日)芝浦アイランド児童高齢者交流プラザで開催されたあいぷら祭りの模擬魚釣りの運営に1名が参加し、子どもたちへの釣竿の受け渡しや景品渡しを行いました。

⑤高輪地区CCクラブ、コミュニティ・カフェ高輪運営

11月8日(金)、11月15日(金)、11月19日(火)の3か所のカフェに4名が参加し、カフェの準備、来場者との交流に参加しました。



明虹会の皆さんとの記念撮影とカフェの打合せ

明治学院大学生対象 1 Day for Others

今年度は春と秋に活動募集を行い、15日間の活動に35名の多数の明治学院大学生が参加しました。素晴らしいアンケート結果もいただきました。

①プレーパーク(みなと外遊びの会)

5月一日と6月の4日間で合計11名が、10月の2日間と11月の4日間で合計15名が参加し、年間合計26名が体験しました。例年この活動(高輪森の公園)には多くの学生が参加し、皆さんほぼ終日活動しています。

②港区バリアフリーマップ作成事業

10月10日に行い、1名が参加しました。広尾駅に集合し、北里研究所病院を經由して天現寺交差点までの調査活動体験とその間に車椅子と白杖の体験も行いました。



秋のプレーパークとバリアフリーマップ作成事業

③港地域パーキンソン病友の会支援活動

11月10日の支援の会に2名、12月8日のクリスマス会に1名が参加しました。会場準備の他に友の会会員と一緒に講演会を聞いたり、クリスマス会のお手伝いも行いました。

④昔遊び継承活動

12月17日の赤羽小学校の昔遊び授業協力に、CCクラブ会員と地域の方と一緒に小学1年生の授業に協力しました。



クリスマス会ビンゴお手伝いと昔遊びけん玉指導

昔遊び継承活動

2022年度から始まったこの活動は地域連携部会を中心に地域CCクラブ、地域の方と一緒に広がりを見せています。

地域連携部会では部会の後に地域の「達人」を招いてコマ回しの練習をし、コミュニティ・カフェ高輪では「お手玉先生」に教えていただいています。少しずつ、けん玉、コマ回し、お手玉、あや取りが上達しています。「昔遊びの会」を発足し活動しています。

9月8日(日)には港区精神障害者支援センター「あいはと・みなと」のお祭りに港区社会福祉協議会の要請もあり、けん玉、お手玉、あや取りそして折り紙を来場者と一緒に楽しみました。10月には白金の丘学園を訪れ、児童と一緒に授業後の活動を楽しみました。

12月17日(火)には恒例になった赤羽小学校の一年生の授業で、CCクラブ会員11名、芝CCクラブ会員9名、地域とPTAの方各2名そして明治学院大学生とスタッフ2名の合計26名で児童約90名に5種類の昔遊び授業を行いました。



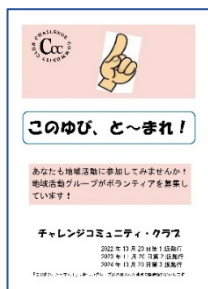
赤羽小学校授業と支援者の皆さん

翌日の18日には芝CCクラブが高輪台小学校で授業を支援しました。2月8日(土)には、明治学院大学ボランティアセンターの呼びかけがあり、高輪中高生プラザにて地域連携部会と地域の方が一緒に児童と交流する会も行いました。

昔遊びの継承活動は多世代交流と地域交流活動になっています。

このゆび、と～まれ！改訂版発行

「2024年度版このゆび、と～まれ！」を10月20日にホームページに掲載しました。昨年度同様6グループが紹介されています。ぜひご覧いただき参加してみませんか。(CCクラブHP)



[27298a1080afa24e1b991f71eab98e08.pdf](https://www.cc-club.jp/27298a1080afa24e1b991f71eab98e08.pdf)

港区社会福祉協議会主催、(株)JALインフォテック「プロに学ぶ！デジタル生活安心講座」協力

1月16日(木)と23日(木)の両日に今年で4回目になる「プロに学ぶ！デジタル生活安心講座」が社会福祉協議会主催、株式会社JALインフォテックネットワークソリューション部が講師になり麻布区民協働スペースで開催されました。

1月16日(木) 14:00～16:10

- ・「スマホで簡単！二次元バーコードとキャッシュレス決済入門」
- ・「デジタル時代の詐欺被害～知っておくべき危険信号～」

1月23日(木) 14:00～16:10

- ・「財布より危険!? スマホ紛失未然防止術と紛失時の対処法」
- ・「安心・快適なデジタル生活♪スマホバックアップとネットワーク環境の見直し」

初日の参加者は65人(会場46人、オンライン19人)、二日目は参加者72人(会場46人、オンライン26人)で、CCクラブの役割はテーマの選定、内容の検討そして当日のリモート対応と受付会場案内でした。安心してスマホを使う方法など熱心に講義を聞き、質問をする区民の姿がありました。



定員一杯の会場参加者(麻布区民協働スペース)

ういケアみなと連携企画

2022年度に港区立がん在宅緩和ケア支援センター(ういケアみなと)との折り紙講習会后、2年振りにCCクラブ会員限定の講習会を開催いたしました。

6月5日(水) 14:00～15:30

- ① 講演者：みる見る訪問看護ステーション所長 賢見卓也氏

テーマ：最後を自宅で～本当にできる？在宅療養～

② 講演者：ういケアみなと メディカルソーシャルワーカー 長谷川千菜都氏

参加者は17名でした。

2月5日(水) 14:00～15:30

講演者：ういケアみなと メディカルソーシャルワーカー 長谷川千菜都氏

テーマ：もしもの時に備える「がん在宅療養にかかるお金のはなし」

参加者は14名でした。

2回ともに講習会終了後に交流会があり、ういケアの方や会員同士がお茶を飲みながら親睦を図りました。



2月5日開催講習会ういケアみなとスタッフ紹介

CC大学 18期生事前募集説明会

2021年度のCC大学 15期生募集から始まった事前説明会が4年目になりました。今年は広報みなと12月1日号の1面から3面に募集記事が掲載されました。説明会は12月14日から始まり、1月11日、1月15日に行われました。各回ともに明治学院大学からは河合先生か金子先生のどちらかが参加され、高輪地区総合支所協働推進課本城課長が募集概略説明を行い、その後にCCクラブと地域CCクラブが説明をしました。5回の説明会に合計60名の受講希望者が参加しました。



約30名が集まった高輪会場説明会

MINATO シニアコレクション (11月23日)

港区在住のシニアの方々が「美しく輝いて生きる」ことをテーマにしたファッションショーの「MINATO シニアコレクション」が、11月23日に六本木のハリウッド大学ホールで開催されました。

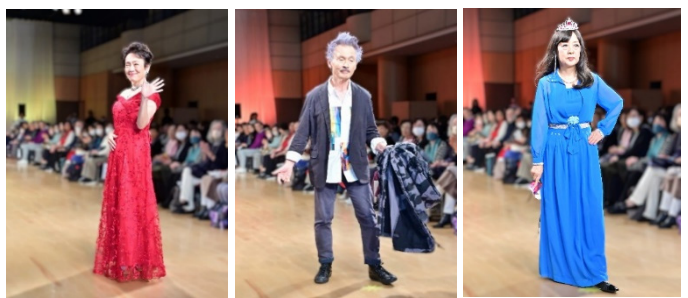


観客で一杯になった会場

このイベントは港区と学校法人メイ・ウシヤマ学園が共催し、港区社会福祉協議会が協力したシニアのためのファッションショーで、CCクラブ会員を含む男女31人が出演され、会場は300人もの観客で盛り上がりました。また、主催者側として清家愛港区長のスピーチがありました。

衣裳はデザイナーが作ったものでなく、各自の思い出の服装や、今回のために新調したものなど、個性溢れたものでした。シニアの方々が、「美しく輝いて」ランウェーを堂々と歩むお姿が印象的でした。

写真はCCクラブ会員出演者のうち、本誌への掲載許可を得た方々です。



日常から飛び出した出演者

地域CCクラブ活動紹介

芝CCクラブ 芝CCの活動の歴史を共有しながら

芝CCクラブの新年会では毎回、1期、2期の方々から芝CCの活動の歴史を聞きます。

どうして「アドプト活動」を始めたのか。

なぜ、「パーキンソン友の会」を立ち上げ、支援を続けているか。などなどをCCクラブ創設期の先輩方から芝CCの歩みを伺うことで芝CCの無理なく自分のペースでそして新たなボランティアをする人への応援を続ける極意と感じます。



(2025年 今年も元気な顔を見せて新年会)

自主活動(アドプト、みなとパーキンソン病友の会支援活動、芝・三田まち俱樂部、芝まつり等)は、地域の方や高齢者支援センター、三田いきいき、ラクっちゃ、デイサービスに活動が広がりました。



(三田まち俱樂部の活動)(デイサービスでの活動)

「芝まつり」や「みなと区民まつり」のCCクラブテントに置かれているラベンダーのポプリも定着してきています。1つ1つが手作業で作られます。



(ポプリづくり手も口も動かし)(昔遊び学校応援)

この数年で若い2桁期の方々が中心になりながら、1桁期の方々と融合して活動してきました。この世代交代を軸に変わりゆく港区で地域を大切に活動を進めていきます。

高輪地区CCクラブ 地域と会員とのつながり

2024年度の高輪地区CCクラブはコロナ禍から解放され、昨年の活動をさらに進化させた一年でした。

現在の会員数は239名となりましたが、2024年度は新たに16期生が11名加わり、CCクラブ全体の活動やカフェの活動にも参加している姿が見られます。

企画がより充実したカフェ活動

昨年に続き夏の猛暑が厳しい年でしたが、カフェには多くのCCクラブ会員と地域の方が来られました。ゆかしの杜カフェでは、地域の方が自分たちの趣味を持ち寄り交流する姿が見られました。HUG高輪のミニ講演会では、会員から多くの提案があり企画が充実し、60名以上が集まった会もありました。CCクラブ会員、外国大使夫人、あいはと・みなと、消防署の方などに講演者になっていただきました。12月の恒例の保育園訪問は保育園児に大変喜ばれました。会場を区民センター集会室に移して行った1月の「ブレスと歌の会」も多くの方が楽しい時間を過ごしました。



交流機会が増えた地域とのつながり

地域とのつながりについては、高輪地区CCクラブの重要なテーマで今年も機会を多く持ちました。高松桜まつり、あじさいロード開放でのカフェ協力、高輪区民センター輪い輪いまつりのカフェ協力、三田台公園で行われた【出張】高輪地区まつり2024 with TAKAWNAWA GATEWAY CITYにも出展しました。



明虹会(芝浦・港南・台場) 明虹会活動ハイライト

明虹会・防災研修会(10月24日、11月4日)

「そなエリア東京・防災体験」と「運河を利用した海上防災研修」を今年は2回企画しました。「国立そなエリア東京」は大地震が発生した時の対策本部が設置される場所で、避難民の受け入れ場所ではないが、今回は地震発生後72時間を生き延びる為の体験研修を受けました。一方、「船と運河を活用する防災研修」では、大震災時に運河を利用して各マンションの非常発電装置用の重油補給、ケガ人の輸送、運河周りに立ち並ぶ冷凍食品倉庫の活用等、身近に流れる運河を活用した防災対策を学びました。



「スマホ・パソコン困りごと相談会」

明虹会ではHP部会の有志およびITチームの周藤氏(15期)とのコラボ企画として、「スマホ・パソコン困りごと相談会」を運営しています。昨年7月に立ち上げ、毎月開催し今年2月の相談会で7回目となります。スマホの基本操作、デジタル安心対策、LINE設定やカメラの編集、あるいは写真のパソコン転送方法など、スマホやパソコンに関する様々な困りごとをお持ちの方々を対象に、個別相談会を行っています。スマホやパソコンの操作などでお困りの方、スマホを使って日頃の生活をもっと豊かにしたいとお考えの方など、遠慮なくご参加ください。(明虹会、HP部会、ITチーム)

		いまさら聞けないスマホ、写真/動画、パソコン問題	
誰でも参加できる		スマホ・パソコンお困りごと相談	
毎月第2金曜10:00~12:00 お好きな時間にどうぞ リーフラ2F (港区立男女平等参画センター) *グループLINE「スマホ・PC月例相談会」を開設 *サロン活動、マンション集会などにも出前します			
スマホ	全般 基本動作、デジタル安心対策 SNS LINE 決済アプリ Apple Pay, Google Pay, 〇〇Payなど、SUICA, WAGN, マイナポータル 請求書払い、港区電子スマイル	主催 ・明虹会 ・HP部会 ・ITチーム	お問い合わせ gm.okabe@631@gmail.com
パソコン	Windows WORD, EXCEL, パワポ Google googleサイト, Spreadsheet, google FORM その他 Zoom		

3Aクラブ(赤坂・青山・麻布) 楽しく笑顔で親睦を!

はじめに「3Aクラブ」は本年度、代表および副代表の交代により、新人代表と新人副代表にてクラブの運営を行ってまいりましたが、CCクラブはじめ3Aクラブの会員皆様方のご協力により毎月の「サロン3A」他も笑顔で楽しく執り行うことが出来ましたことをお礼申し上げます。

「3Aクラブ」では、「無理をしない!」「居場所をつくる」「笑顔で会員間の絆を大切に!」をモットーとして毎月開催される「サロン3A」によって会員間の親睦を図ってきました。

本年度の「サロン3A」では、「港区におけるボランティア活動について」や「麻布の今昔」「港区



の福祉計画を知ろう」という研修会のほか、「ヴォイストレーニング」や「ロボット

とのコミュニケーション」による健康維持、そして「外務省外交資料館展示室」「港区立みなと科学館」「国立科学博物館附属自然教育園」等の港区内の施設見学や散策を実施いたしました。



また「他事業との協働を推進する!」においては「麻布区民センター」が主催する「ホールで楽しくヴォイストレーニング」や「宇宙の不思議」の会場受付等のお手伝いを通して参加者の方々との交流を実施いたしました。

これからも会員同士の絆はもちろんの事、赤坂・青山・麻布地区の皆さんと楽しく笑顔が絶えないクラブにして行きたいと思っております。

■運営委員会報告

感染症対策として、会場とオンラインで開催されていた運営委員会は、2024年6月より会場のみで開催となりました。更に9月より、河合先生はじめ、社会連携課のお力添えをいただき、出席者が増え手狭になった明治学院大学 3203 教室から 1254 教室へ移動して開催されています。より広い教室をお借りできたことで、ご参加の皆様のお顔を拝見しながら開催できることが有難く、意見交換も活発になってきたように感じます。運営委員会は、CCクラブ会員の意見交換の場と考えています。クラブ全体の運営について、ご意見や疑問点などありましたら、ふるって期・グループの運営委員を通してお伝えいただきたいと思います。多くのご意見をいただき検討を重ねて、より良いCCクラブの運営に繋がれば幸いです。



今年度は、年間を通して1 Day for Others (ボランティア体験)に取り組み、CC会員、17期生さらには、明治学院大学生とも「ボランティア」について幅広く意見を交わす機会に恵まれました。時には高校生に自らの経験談を披露し、小学生とは昔遊びを楽しみ、世代を超えた交流が広がりました。また、みなと区民まつりや港区地域福祉フォーラムにも参加協力できました。様々な活動が可能になったのも、皆様のご協力があったからこそと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。そして、これからも楽しんでご参加くださいますよう、よろしく願いいたします。

(代表 阿部 令子)

2025年度CCクラブ 第10回定期総会 ホームカミングデイ (予定)

今年度の定期総会、ホームカミングデイを以下の日程で計画しています。

日時：2025年6月21日(土) 13:30からを予定

場所：明治学院大学白金キャンパス内を予定

- CCクラブ第10回定期総会

- ホームカミングデイ

開催形態などの詳細は、決定次第皆様にお知らせ致します。

編

昨年ノーベル平和賞が日本被団協に授与され、世界的に被爆者の証言、活動が注目されていることを目の当たりにした。核廃絶に向けた弛まぬ努力と草の根運動が授賞理由とのこと。二度と核を使ってはいけないという「核のタブー」が揺らぐ中、まだ語れる人はいるが、5年、10年経ったらどうなるのかという不安も湧いてきた。

集

後

記

このような大きなテーマに限らず、もっと身近なところでも記憶を守る強い文化と継続的な関与が新たな世代に引き継ぐことが出来るという思いで、このCCクラブの活動も永く続けていくべきと考えさせられた。

(16期 石賀 秀行)

チャレンジコミュニティ通信 vol. 53 2025年3月31日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 学長室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台 1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>

印刷協力 港区高輪地区総合支所協働推進課

会報部会

部会長 瀬能 正実 (10期)

部員 古橋 義弘 (1期)

部員 太田 則義 (7期)

部員 棟方千恵子 (12期)

部員 宇津 真治 (15期)

部員 長峯 浩子 (15期)

部員 森 容子 (15期)

部員 石賀 秀行 (16期)

協力部員 池畑 博実 (10期)

周藤 孝夫 (15期)